

エコアクション21

環境活動レポート

発行:2025年8月18日

2024年度版

(活動期間 2024年7月1日～2025年6月30日)

株式会社 栄光製作所

承認	検討	作成
井内	水嶋	山崎

環境経営方針

制定 1998年10月25日

改正 2018年09月24日

地球環境とすべての事業活動の調和を基本に、
創造性と行動力を発揮して環境保証面の諸施策を
推進して行く。

- 1) 企業倫理に基づいた透明な環境保証活動を志し、積極的に環境情報を公開して行く。
- 2) 環境経営方針において関連する法規制の遵守、企業倫理及び社会ルールなどに基づき適切に実施され、環境負荷の継続的改善に結びついているかを評価する。
- 3) RoHS指令、PRTR制度、REACH規制の完全対応。
- 4) 生産活動における省資源、省エネルギー、廃棄物削減など環境負荷の極小化を図る。
- 5) 精密金属加工工程から排出される廃棄物及び水使用量、電気消費量の削減に取り組む。
- 6) 製品含有化学物質管理体制の構築により、適正な物品管理活動を行なう。
- 7) 事業活動に必要な資源の調達はグリーン調達を推進し、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を選定し優先的に調達する。
- 8) 地球環境と調和する製品・生産技術、再資源化技術、評価技術などの環境保証技術を積極的に導入する。
- 9) 良き企業市民として社会・地域における環境保護活動を積極的に支援する。
- 10) 社員一人ひとりの地球環境保護意識を向上させるため、会社を挙げて教育・啓発活動を展開する。

(株) 栄光製作所

代表取締役社長 井内 義博

1. 事業活動の概要

(1) 事業社名及び代表者名

株式会社 栄光製作所

代表取締役社長 井内義博

(2) 創業

昭和41年9月

(3) 所在地

本社工場

長野県塩尻市大字広丘郷原1000-6

第2工場

長野県塩尻市大字広丘郷原道東1010-6

第3工場

長野県塩尻市大字広丘郷原1314-1

(4) 事業内容

精密金属加工業 光学機器・各種OA機器・医療機器等の先端機器へ組み込まれる精密部品をNC旋盤、マシニングセンター等で多品種少量生産をしております。

主要製品

光学機器部品

業務用放送機器部品

半導体製造装置部品



(5) 環境管理責任者、担当者及び連絡先

責任者 取締役工場長 水嶋 大介

担当者 山崎 幸雄(事務局)

電話番号 0263-52-1585

FAX番号 0263-54-2007

E-mail ea_kankyou2@eiko-ss.com

(6) 事業の規模

資本金 3,000万円

従業員 81人

床面積 5,551m²

(7) 事業年度

7月～6月

(8) 対象範囲

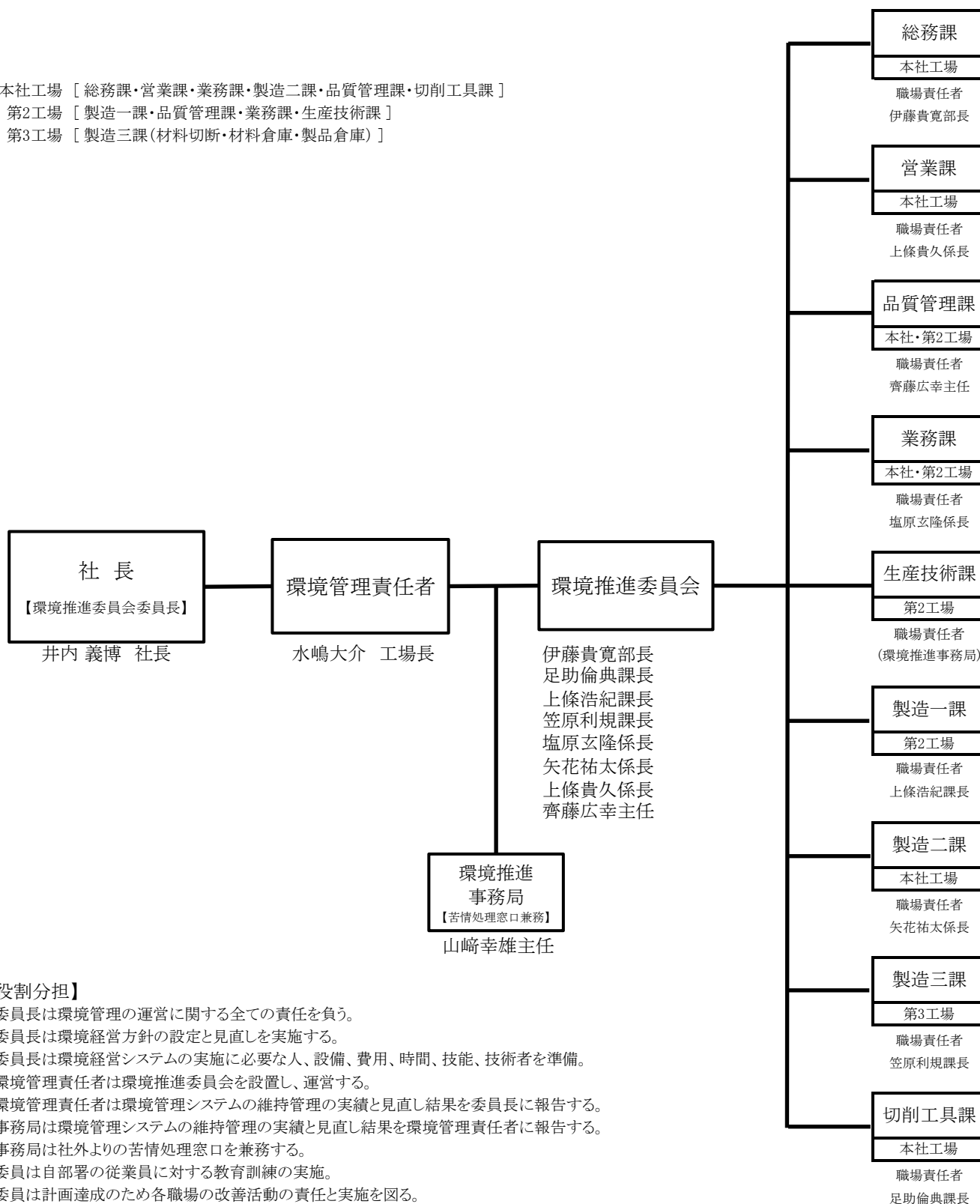
関連事業所(第2、第3工場)を含む全社、全活動

レポート対象期間 2024年7月～2025年6月

2. 実施体制の構築

環境管理推進組織図

本社工場 [総務課・営業課・業務課・製造二課・品質管理課・切削工具課]
 第2工場 [製造一課・品質管理課・業務課・生産技術課]
 第3工場 [製造三課(材料切断・材料倉庫・製品倉庫)]



【役割分担】

- ・委員長は環境管理の運営に関する全ての責任を負う。
- ・委員長は環境経営方針の設定と見直しを実施する。
- ・委員長は環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。
- ・環境管理責任者は環境推進委員会を設置し、運営する。
- ・環境管理責任者は環境管理システムの維持管理の実績と見直し結果を委員長に報告する。
- ・事務局は環境管理システムの維持管理の実績と見直し結果を環境管理責任者に報告する。
- ・事務局は社外よりの苦情処理窓口を兼務する。
- ・委員は自部署の従業員に対する教育訓練の実施。
- ・委員は計画達成のため各職場の改善活動の責任と実施を図る。
- ・全従業員は、環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。
- ・全従業員は決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

3. 環境目標とその実績

3-1 環境への負荷の状況

(1) 環境負荷年度別集計表

		単位	2024年度	2023年度	2022年度
1)	総エネルギー投入量	購入電力	MJ	7,672,384	8,041,766
		化石燃料	MJ	564,018	677,028
		小 計	MJ	8,236,401	8,718,794
2)	総物質投入量	資源投入量	t	140.25	166.79
3)	水資源投入量	上水道	m ³	1,155	1,252
4)	温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	442,794	394,262
5)	化学物質排出量・移動量	大気への排出量	t	7.74	8.10
		土壌への排出	t	0.15	0.13
		小 計	t	7.90	8.23
6)	総製品生産高	製品生産高	t	57.53	68.51
7)	廃棄物等総排出量	再生利用	t	1.35	1.89
8)	廃棄物最終処分量	焼却量	t	4.87	6.36
		最終処分量	t	0.05	0.06
		小 計	t	6.27	8.31
9)	総排水量	下水道	m ³	1,155	1,252
		BOD	g	3,917	1,252

＊ 2016年度より環境省発表2014年度(H26年)中部電力CO₂排出係数 0.497(kg-CO₂/kWh)を使用。
2021年度より環境省発表2019年度(R01年)中部電力CO₂排出係数(調整後:メニューB(残差))0.426(kg-CO₂/kWh)に変更。

3-2 環境への取組状況

(1) 環境への取組の自己チェック結果

エコアクション21の環境への取組自己チェックの結果は次の通りです。

- 1) 全体的に昨年、一昨年の踏襲内容となり有効な施策を新たに実施出来ていない。
- 2) エコ・ウォーク「クリーン塩尻」大作戦は今年も中止となりましたが、クリーン塩尻パートナー制度に登録して、独自の地域環境美化活動として定期的に会社近隣のごみ拾い活動を継続中です。
ホームページ上での環境情報の提供による社会的なコミュニケーションについては引き続き実施。
- 3) 環境への取組状況は、施策実施度合で見ると94%であり昨年度から2%向上。

施 策	2023年度末			2024年度末			差(向上率)		
	チェック 結果 の 点数	満点 時 の 点数	施策 実施 度合 (%)	チェック 結果 の 点数	満点 時 の 点数	施策 実施 度合 (%)	チェック 結果 の 差	満点 時の 点数 差	施策 実施 度合 (%)
1) 事業活動へのインプットに関する項目									
① 省エネルギー	86	88	98%	86	88	98%	0	0	0%
② 省資源	21	24	88%	21	24	88%	0	0	0%
③ 水の効率的利用及び日常的な節水	11	12	92%	11	12	92%	0	0	0%
④ 化学物質使用量の抑制及び管理	48	60	80%	54	60	90%	6	0	10%
小 計	166	184	90%	172	184	93%	6	0	3%
2) 事業活動からのアウトプットに関する項目									
① 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止	16	16	100%	16	16	100%	0	0	0%
② 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	70	74	95%	70	74	95%	0	0	0%
③ 排水処理	10	10	100%	10	10	100%	0	0	0%
④ その他生活環境に係る保全の取組等	4	4	100%	4	4	100%	0	0	0%
小 計	100	104	96%	100	104	96%	0	0	0%
3) 製品及びサービスに関する項目									
① グリーン購入(環境に配慮した物品等の購入、使用等)	10	12	83%	10	12	83%	0	0	0%
② 製品及びサービスにおける環境配慮	32	36	89%	34	36	94%	2	0	6%
小 計	42	48	88%	44	48	92%	2	0	4%
4) その他									
① 生物多様性の保全と持続可能なための取組	0	0	0%	0	0	0%	0	0	0%
② 環境コミュニケーション及び社会貢献	18	18	100%	18	18	100%	0	0	0%
③ 施主・事業主における建築物の増改築、解体等に当たっての環境配慮	0	0	0%	0	0	0%	0	0	0%
小 計	18	18	100%	18	18	100%	0	0	0%
合 計	326	354	92%	334	354	94%	8	0	2%

* 表中のチェック結果の点数は、既に取り組んでいる施策『2点』、更に取り組むが必要な施策『1点』
取り組んでいない施策が『0点』として集計し、各施策毎に実施度合を示してあります。

3-3 環境活動改善実施目標・実績

(1) 目標値の見直しについて

- 2023年度に見直した基準値を継承し、水道水を除く項目については基準値より2%削減した数値を2024年度の目標値として設定したいと考えてます。
- 水道水については、2021年-2022年の水道水使用量の平均値を目標値の基準値へ見直したいと考えます。売上げ高に直結しない為、現状維持及び削減努力として見直しを考えます。
- 省エネ活動によるCO2排出量削減に於いて使用している2019年度中部電力CO2排出係数は引き続き使用。参考としまして最新の中部電力CO2排出係数でもデータを採用して数値の確認は行っています。

(2) 2024年度の目標

- ① 二酸化炭素の削減 2,876.88 kg-CO2/百万円
 - ② 電力使用量の削減 6,691.44 kwh/百万円
 - ③ 燃料用灯油の削減 11,619.00 ㍓
 - ④ 水道水の削減 1,307.50 m³ 現状維持及び削減努力
 - ⑤ 一般廃棄物の削減 13.20 kg/百万円
 - ⑥ 損品の削減 23.76 kg-CO2/百万円
- *2019年度中部電力CO2排出係数 0.426 kg-CO₂/kWh を使用。

(3) 環境活動中期目標値

No.	該当項目	単位		基準値	2023年度 (1%減)	2024年度 (2%減)	2025年度 (3%減)
①	CO2排出量	kg-CO2	単位/百万円	266.54	263.87	261.21	258.54
②	電気使用量	kwh	単位/百万円	569	563.31	557.62	551.93
③	化学物質使用量	㍓	単位	11,856.50	11,737.94	11619.37	11500.81
④	廃棄物排出量(可燃ごみ)	kg	単位/百万円	1.11	1.11	1.09	1.08
⑤	排水量	m ³	単位/百万円	0.77	0.76	0.75	0.75
⑥	損品CO2排出量	kg-CO2	単位/百万円	2.02	2.00	1.98	1.96

(4) 環境活動実績

			上期 (7月～12月)	下期 (1月～6月)	2024通期	
			原単位(3項は使用量)	原単位(3項は使用量)	原単位(3項は使用量)	
1	二酸化炭素の削減	目標	1,438.44	1,438.44	×	2,876.88
	(単位: kg-CO2/百万円)	実績	1,606.28	1,777.01		3,383.29
2	電力使用量の削減	目標	3,345.72	3,345.72	×	6,691.44
	(単位: kwh/百万円)	実績	3,765.91	3,919.83		7,685.74
3	燃料用灯油の削減	目標	5,809.50	5,809.50	×	11,619.00
	(単位: ㍓)	実績	3,710.00	9,000.00		12,710.00
4	水道水の削減(単位: m ³)	目標	653.75	653.75	○	1,307.50
	現状維持及び削減努力	実績	572.00	583.00		1,155.00
5	一般廃棄物の削減	目標	6.60	6.60	×	13.20
	(単位: kg/百万円)	実績	7.95	5.37		13.33
6	損品の削減	目標	11.88	11.88	×	23.76
	(単位: kg-CO2/百万円)	実績	21.80	21.51		43.31

4. 主要な環境活動計画

4-1 2024年度目標

2024年度環境改善計画

(1) 省エネ活動によるCO2の削減

①	電力使用量の削減	稼動停止機械のブレーカOFFの継続。
		不要照明の消灯。
		空調使用時の室温の遵守(冷房27℃ 暖房23℃)。
		終業10分前の空調オフ。
		3ヶ月に1回エアー洩れ点検、各職場でも月1回の点検を実施。
		年に2回、エアコンフィルターの清掃・交換の実施。
荷物の搬送を伴わない移動などの、必要性のないエレベーターの使用禁止。		
②	化学物質使用量の 削減(燃料用灯油)	暖房使用時の室温の遵守(23℃)と開始/停止ルールの策定・改善。
		床暖房の効率的な使用のためのボイラー設定温度の見直し。
③	社有自動車(ガソリン)	アイドリングは最小限にとどめる。
		使用状況の把握、大きな使用があった場合の調査を行う。
		(車両別月次走行距離のデータ取り及び、各部署における使用目的の調査)

(2) 廃棄物排出量の削減

①	可燃ごみの削減	分別の徹底。事務局による監視と全体朝礼での教育指導、 廃棄物処理手順一覧の充実により、分別方法不明物を減らす。
		ペーパーレス化の推進。
		掲示物等の中で、電子化して運用できるものや紙ベースである必要がないものがないか調査。
		可燃ごみ処分内で、分別又は変更する事で再資源化できるものがないかの調査。
		ビニール袋等のプラスチック類の分別について産廃業者と相談し、分別が可能か検討する。

(3) 排水量の低減

①	水道水使用量の削減	節水に対する啓蒙活動(朝礼でのアナウンス等)
		清掃時における井戸水活用の継続。
		使用量の変動に対する調査として、水道メーターの確認と多い場合の使用内容確認。

(4) 損品によるCO2排出量の削減

①	損品の削減	品質管理課内で情報を共有し、環境負荷の大きい重量品を中心に損品発生傾向等を
		まとめて、過去の損品報告書等から他部品に水平展開できるものがないか検討し、
		それらを月1件以上、製造部門へ情報出しを行い未然防止に繋げていく。
		損品対策会議へ情報出しをおこない、
		損品傾向が多い部番について作業標準書の確認や見直しを検討する。

(5) 有害化学物質による環境負荷の低減

①	化学物質管理の徹底で環境事故『0』	取扱い方法の徹底、集中管理の継続。
②	地下汚染防止	機械の切削油・潤滑油の漏洩について、事務局として情報を入手する。 漏洩事故記録は今後の未然防止に繋がるよう「環境事故報告書」を 発生部署と連携し作成、社内に周知して情報を共有する。
③	化学物質使用量の把握	燃料用灯油(1)②項に示した様に削減を目指す。 消防法遵守のための、必要最低限の保有数量の監視。 化学物質の全体使用量は、引き続き監視調査対象とし使用量を確実に把握。
④	排水基準の遵守	塩尻市の下水道排出基準の遵守。 井戸水の水質検査実施。

(6) その他

①	グリーン購入	非グリーン購入品目の調査及び、定期的なアナウンスの実施。 非グリーン購入品に代わる、価格的にも現実的な代替品の調査。
②	SDGs達成に向けた取組み	長野県SDGs推進企業登録制度登録時に公表した重点目標の推進を 意識したエコアクション21の取組みの実施。 長野県SDGs推進企業情報サイトの充実及び活動の社内へのアナウンス実施。
③	近隣住民との調和	クリーン塩尻パートナー制度へ登録して独自の地域環境美化活動 定期的な会社近隣のごみ拾い活動を継続する。 屋外清掃の実施。(3月～12月) 集まった落ち葉は社員にアナウンスを行い、利用希望があれば提供する。 可搬ポンプ・消火器訓練の実施。(予定:11月)
④	環境意識高揚教育の実施	方針・目標・計画等の周知。受入時の教育。
⑤	内部監査の実施	巡回形式の環境内部監査の実施。(6月)

4-2 その他活動



▲ 屋外清掃実施
定期的な会社近隣のごみ拾い活動
(3月～12月)

※例年社会貢献活動として参加の エコ・ウォーク「クリーン塩尻」はコロナ禍の影響で中止



▲ 可搬ポンプ放水訓練を実施



▲ 消火器取扱い訓練を実施

5. 環境関連法令等の違反及び訴訟関係

- (1) 違反、訴訟件数
環境推進委員会及び事務局が中心となり法規の遵守状況について、2025年8月1日付で評価を行いました。
その他、関連機関及び、近隣住民からの指摘苦情、訴訟などは過去3年間、ありませんでした。

- (2) 適用環境関連法規等
当社の事業活動に適用される環境関連法規等は、下表の通りです。

適用環境関連法規等一覧	対 象
塩尻市公害防止条例(振動、騒音防止法)	7.5kW以上の空気圧縮機
下水道法	下水道への排出基準
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物、産業廃棄物
消防法(危険物管理)	危険物の種類、量
消防法	防火管理者の選任、消防計画の作成
化学物質管理促進法(PRTR法、SDS法)	化学物質の移動・排出量の把握
フロン排出抑制法	空調機、エアドライヤ、冷水機
電波法	高周波利用設備(高周波ロー付機)
社会的関心、土地地下水汚染防止	有機溶剤・油類等
電気事業法	自家用電気工作物(電気主任技術者)
車両運送法	安全運転管理者
エネルギー使用の合理化に関する法律	電力、灯油使用量の原油換算値の把握
愛知県条例(県外産業廃棄物の搬入実績)	廃油搬出量の把握

6. 代表者による全体の評価と見直し・指示

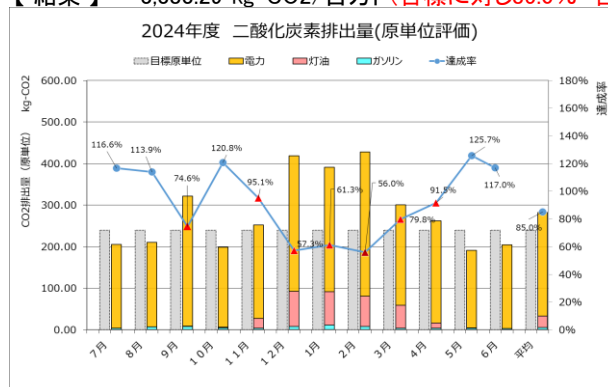
『環境活動の取組結果の評価』

実施日：2025年7月21日

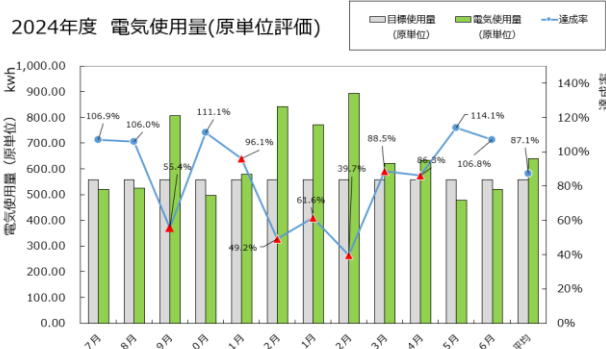
(1) 2024年度環境改善取組結果

1) 2024年度環境改善目標取組結果(累計値)

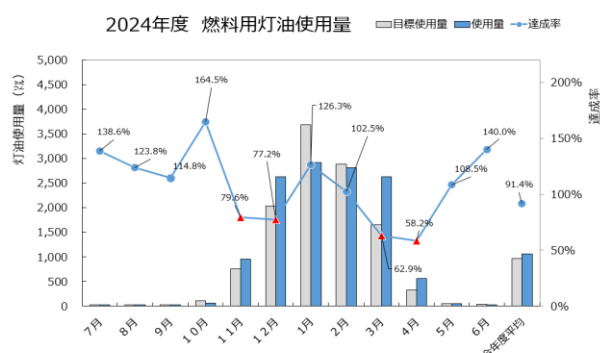
- ① 二酸化炭素の削減 【目標】 2,876.88 kg-CO₂/百万F (基準値から15.0%増)
【結果】 3,383.29 kg-CO₂/百万F (目標に対し85.0% 目標未達成)



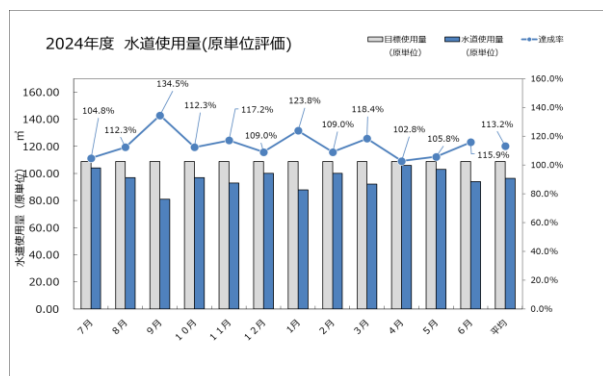
- ② 電力使用量の削減 【目標】 6,691.44 kwh/百万円 (基準値から12.9%増)
【結果】 7,685.74 kwh/百万円 (目標に対し 87.1% 目標未達成)



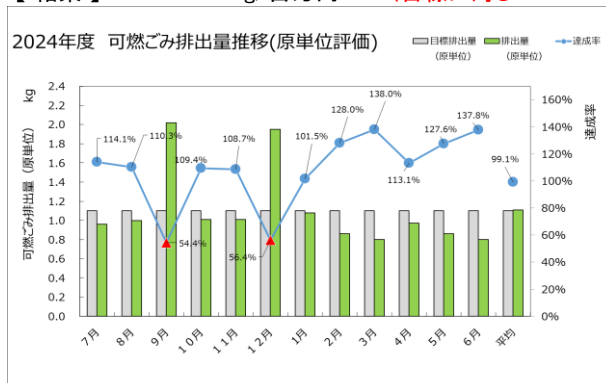
- ③ 燃料用灯油の削減 【目標】 11,619.00 ㍓ (基準値から8.6%増)
【結果】 12,710.00 ㍓ (目標に対し91.4%目標未達成)



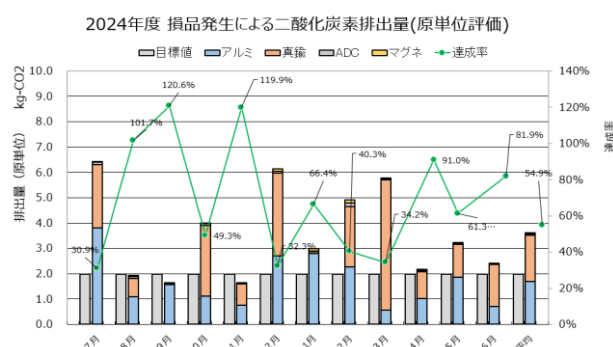
- ④ 水道水の削減 【目標】 1,307.50 m³ (基準値から13.2%減)
(現状維持及び削減努力: 【結果】 1,155.00 m³ (削減努力目標に対し113.2%目標達成)



- ⑤ 一般廃棄物の削減 【目標】 13.20 kg/百万円 (基準値から0.9%増)
 【結果】 13.30 kg/百万円 (目標に対し 99.1% 目標未達成)



- ⑥ 損品の削減 【目標】 23.76 (基準値から45.1%増)
 【結果】 43.31 kg-CO2/百万F (目標に対し54.9%目標未達成)



- ⑦ 近隣住民との調和
 a) 社会貢献の実施

【目標】 クリーン塩尻パートナー制度の会社近隣のごみ拾い活動を実施
 → 実施 目標達成

- b) 火災事故防止

【目標】 消火器取扱い訓練および可搬ポンプ放水訓練の実施
 → 実施 目標達成

2) 反省及び今後の課題

① 良かった点

- ・ 水道水の削減努力目標は達成できた。
- ・ 防火管理者と連携し、消火器の使用訓練・可搬ポンプの放水訓練を実施。(11月)
- ・ 今年も中止となったエコ・ウォーク「クリーン塩尻」(市内ゴミ拾い)に代わる社会貢献活動として、クリーン塩尻パートナー制度の会社近隣のごみ拾い活動を実施した。
- ・ 昨年に比べると燃料用灯油以外の実績において減っている。

② 悪かった点

- ・ 目標が実現可能な目標ではなかった。見直しが計算式等の理由で期の変わり目まで見直さなかった。
- ・ 二酸化炭素の削減、電力使用量の削減、燃料用灯油使用量の削減、一般廃棄物の削減、損品の削減が未達となってしまった。
- ・ 計画に対し「何を」「いつまでに」といった実行目標を明確にしないまま進めた結果、後になるにつれ計画が遅延し、環境推進委員会議案がギリギリになってしまった。
- ・ 使用量の増加として、暖房時の室温が23℃を超えてもそのまま使用していることもあり、使用ルールの周知徹底ができなかった。又、巡視時の確認で気付くことができずに指摘ができなかった為、灯油を大量に消費してしまった。

3) 環境推進委員長(社長)指示事項

残念ながら、一項目も目標を達成することが出来ませんでした。(報告時、水道水削減について計算ミスにより全項目未達) 活動内容、方法等しっかり見直し、次期の活動をお願いします。

目標値見直しのアドバイスもしましたが、見直しはありませんでした。

目標値に問題が無いのであれば、何故達成できていないのか、一つ一つ分析し、どう対応していけば目標達成が出来るのか考え、活動することが不足していたのではないのでしょうか。

全般的に問題に対する考察不足が見られ、その結果活動内容の検討不足を生み、その内容で活動するため、目標未達成に繋がったと考えます。目標達成に向け、多方面から深耕し、活動方法を策定し、活動してください。

3年前から毎年指摘していますが、カーボンニュートラルを達成すべくどうして行くか今期も、検討、提案が見られませんでした。時間は瞬間に過ぎます。

7. 次年度(2025年度)の取組内容

2025年度環境目標値

1) 2024年度の達成要因と次期への課題
2024年度は目標を達成することができませんでした。
2024年度、過去から継続して活動してきたものの以外の、削減や有効利用に繋がる活動が行われなかったことが一因であると受けとめております。
活動方法の策定をして、可能な限り低減できるように進めます。

- 2) 2024年度の目標値設定
- ・ 売上に左右される原単位ではなく
従業員1人あたり使用量の1%減に設定を見直して運用していく。
 - ・ 計算方法の変更・気候変動等視野に入れて前年よりの削減とする。

4) 2025年度の目標値

項目	単位		基準値		2025年度目標
			2021-2022平均	2024年度	2024年度1%削減
二酸化炭素排出量	kg-CO2	実績値	457,485.50	341,006.95	337,596.88
		単位/従業員数		4,209.96	4,167.86
電力使用量	kwh	実績値	993,359.50	780,507.00	772,701.93
		単位/従業員数		9,635.89	9,539.53
燃料用灯油	ℓ	実績値	11,856.50	12,710.00	12,582.90
		単位/従業員数		156.91	155.34
水道使用量	m³	実績値	1,307.50	1,155.00	1,143.45
		単位/従業員数		14.26	14.12
可燃ごみ排出量	kg	実績値	1,903.40	1,329.30	1,316.01
		単位/従業員数		16.41	16.25
損品発生による 一酸化炭素排出量	kg-CO2	実績値	3,486.00	4,510.35	4,465.25
		単位/従業員数		55.68	55.13

2024年度従業員は2025年6月末の人数81名を使用